

身近な文化財

第二十二話

白河だるま

毎年2月11日に行われる「白河だるま市」は、白河の冬の風物詩です。この日は、街なかのだるまを売る露店やさまざまな屋台が並び、多くの人々にぎわいます。

もともとは、旧暦の1月14日に「市神祭」(年の初めの市で、市場の守り神を祀る祭)が開かれていましたが、次第にだるまが主な売り物となつて「だるま市」と称されるようになりました。

だるまは、禅宗の開祖である達磨大師の姿をかたどった起き上がり人形で、江戸時代後期に作られるようになったと考えられています。だるまの赤色は厄除けの意味があり、また「七転び八起き」などというように、縁起ものとして全国に広まりました。今でも各地で地域色豊かなだるまが作られています。

昔から白河だるまは、2つの店舗で製造されており、全体が口・口の形などには違いがありますが、顔や胴の模様が鶴亀松竹梅をかたどっているとされます。



▲白河だるま (佐川だるま)



▲白河だるま (渡辺だるま)

白河だるまの起源は諸説あります。昭和初期の新聞記事には、当時の言い伝えとして、白河藩主松平定信の命により、瓦谷金七という人物が川崎大師でだるまづくりの修業をしたこと、定信の御付絵師の谷文晁がだるまの顔を描き手本に与えたことが書かれています。今わかつている中で、この記事が、白河だるまの由来が詳しく記された最も古い記録です。

白河だるまの特徴の一つは、東北と関東の特徴をあわせ持っていることです。やや縦長の姿は、三春だるま(三春町)のような東北系の特徴です。一方で、青や緑などの色を使わず、全身を赤く塗るのは高崎だるま(群馬県)など関東系の特徴です。白河だるまは、みちのくの玄関口・白河ならではの身近な文化財の一つといえます。

問文化財課 ☎ 2310



地域で輝く卒業生

益子 柊聖 さん
(令和3年度埼玉工業高校機械科卒)



▷勤務先
住友ゴム工業(株) 白河工場

私は、埼玉工業高校(現白河実業高校埼玉校舎)を卒業後、住友ゴム工業(株)白河工場に勤務しています。

学校生活を振り返り、機械の基礎などを学び、資格を取得したことが今の成長につながっていると実感しています。

弊社ではタイヤを製造しており、より良い製品をお客様に届けたいと思っています。品質方針である「最高の安心とヨロコビをつくる」に基づいて、ひとつひとつの工程を丁寧に行い、お客様に安心していただけるタイヤを1本1本大切に製造していきます。

私は、住友ゴム工業の一員として誇りを持ち、これからも邁進していきます。

★ 新生 白河実業

Vol.11

☎ 白河実業高校 ☎ 241176

★ 各科紹介 ⑦ 埴校舎

埴校舎では、生徒会が「地域恩返しプロジェクト」を立ち上げ「ものづくり×地域探究」や「地域体験活動」「地域の魅力発信」などを積極的に行っています。



▲ダリア染め体験



▲地域イベントのメダル製作

▲清水寺(京都府)にて福島の元気をPR